

みくらんど

JA全農えひめ情報

■新春企画 小越県本部長インタビュー

夢と活力のある愛媛農業に向けて
従来の手法にこだわらず産地基盤づくりを！

1

2016・January



愛媛の酒蔵めぐり

7

久米の井



増築を重ねた現役の蔵で昔ながらの酒造り。古いもので築200年。映画「はだしの花嫁」(鶴岡千里出演)のロケ地にもなった



突き当りには由緒ある日尾八幡神社が座す



▲(左)「久米の井 純米大吟醸 原酒」。酒米の最高峰・山田錦と匠の技による至福の一滴。(中)「久米の井 純米吟醸酒」推奨の一本。(右)「十五万石 純米吟醸 しずくゑ」。地元松山を意識し、松山藩の石高に由来する銘柄。愛媛、松山の伝統や文化の香を醸す

後藤酒造株式会社

代表銘柄 久米の井
創業 1602年(慶長7年)
代表取締役 後藤 政廣
住所 松山市南久米町255-1
TEL 089-975-0011

「後藤酒造」は松山城築城時に城主加藤嘉明の命により後藤三兄弟が酒造りを始め、寛永年間(1625年頃)に末弟が分家。良水を求め、米どころにして名水百選「杖ノ淵」に程近い久米の地にて酒造業を始めます。敷地内に400年湧く井戸水は硬水で、カリウム、カルシウムが多く醗酵力が強いために腐造なく時代を生き抜き、現在の低温醗酵にも向く水質です。

原料米は、純米大吟醸が兵庫県産特等米「山田錦」、本醸造は「松山三井」、純米吟醸は愛媛・宇和産指名の「しずくゑ」を厳選し、妥協を許さない蔵人たちの「匠の技」により極上の美酒へと仕上がります。その質の良さから大手企業が自社銘柄の非売品として純米大吟醸を所望するほどです。14代目の代表・後藤政廣さんは「書家の三輪田米山がうちでよく飲み、横山大観が連泊、美空ひばりや銀幕のスターたちも多く訪れました」と懐かしい話に目を細め、「様々な企業から指名の声がかかるのは有難くも、要望に応える修正が効かない酒造りに気が引き締まります」と重みのある言葉が穏やかな口調で発せられます。

「日本酒一筋」の伝統を守る蔵に今期、勤続17年の伊方杜氏のあとを継ぐ若き杜氏が高知から着任。歴史の新しい1頁となる酒が生まれようとしています。

あぐり〜ど

January 2016

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



神様にお供えをした鏡餅は木槌で割って、今年の幸せを祈っていただきます。様子を見ていたチビちゃんが見よう見まねで鏡開きに挑戦！ うまく割れるかな？ 囲炉裏の大鍋に春の七草も入り、あとは雑煮のお餅を待つばかり。ぜんざい、あべかわ、しょうゆ餅の準備も整い、「チビちゃん、お餅はまだですかー？」みんなが見守る鏡開きです。

●表紙：鏡開き
はら ふみ(イラストレーター)

※『あぐり〜ど』は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.181

愛媛の酒蔵めぐり⑦〜後藤酒造(株)

2

会長年頭あいさつ

J A 全農えひめ運営委員会会長 岡本 健治

4

〈新春企画〉小越県本部長インタビュー

夢と活力のある愛媛農業に向けて
従来の手法にこだわらず産地基盤づくりを！

10

THE・ねっとわーく

12

ふるさと ESSAY VOL.249

食の記憶

平繁 かなえさん

14

TOPIC NEWS

18

なんでもBOX

19

統計BOX

20

READERS通信

NOW NOW COOKING

〈今月の素材〉温泉たまご

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://fresh-ranran.jp/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

会長年頭あいさつ

新年を迎えて



全国農業協同組合連合会愛媛県本部
運営委員会 会長

岡本 健治

新年を迎えるにあたり謹んでごあいさつ申し上げます。組合員ならびに読者の皆様におかれましては、清々しい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

また、平素は、JA全農えひめの事業各般にわたり格別のご指導・ご協力をたまわり、厚くお礼申し上げます。

さて、日本経済は、26年4月の消費税引き上げ後の落ち込みから脱するものの、個人消費の鈍さや海外経済の減速による輸出の不振を受け、緩やかな景気回復にブレーキがかかった状況ですが、本年は企業収益が堅調に推移し、強めの設備投資が維持されることに加え、雇用・所得環境の改善

が個人消費の下支えに寄与することが見込まれており、内需主導で緩やかな回復基調が続くと予想されております。

一方、国内農業では、農家所得の低下が農家経営の悪化を招き、高齢化・離農による耕作放棄地の増加、農業生産額の減少など生産基盤は脆弱化しており、厳しい状況が続いております。

また、平成27年は日本農業ならびにJAグループにとって、大きな転換期となりました。8月には改正農協法が成立し、組合の事業運営原則の明確化や法律上の中央会制度の廃止などJAグループの事業・組織の根幹にかかる大幅な法改正がなされました。また、10月にはTPPが大筋合意され、聖域とされていた重要5品目の特別輸入枠の設定のほか、本県の基幹作物である柑橘をはじめ多くの農産物で関税撤廃が明らかとなり、生産現場には大きな不安と怒りの声広がっています。政府によるTPP関連政策の検討がなされておりますが、JAグループとして農業者が安心して持続的に農業経営が続けられるよう、行政や関係機関に対し万全の政策を強く要請していく所存であります。

こうした中で、10月には第27回JA全国大会、12月には第36回JA愛媛県大会が開催され、「農業者の所得増大と農業生産の拡大への挑戦」を重点実施分野として、JAグループ自己改革の実践方針が決議され、今後3年間その着実な実践に取り組むこととしております。

全農では、次期3か年計画（28～30年度）がスタートします。現在取り組んでいる3大重点事業施策と3つの事業戦略を基本に、農業者の所得増大や農業生産の拡大、地域の活性化に向け、全農グループ自らがスピード感を持って、全力をあげて取り組んでまいります。

愛媛県本部におきましても、25年度から3か年取り組んできた販売に重点を置いたトータル戦略「トータルアグリッド事業」を深化・拡充するとともに、JA愛媛県大会の決議を踏まえ、愛媛農業の生産基盤強化と農家所得の向上、担い手サポートセンターの設置による地域農業を支える担い手の確保・育成への支援などをJAと一体となって積極的に取り組めます。また、各事業におきましては、グループ会社と連携し、会員JA・組合員の皆様から求められている組織の役割を最大限発揮して、愛媛農業の確かな未来を切り拓いてまいります。

最後になりましたが、本年も会員・生産者の皆様の一層のご指導・ご支援をお願い申し上げ、新年のごあいさついたします。

新春企画

小越県本部長インタビュー

夢と活力のある愛媛農業に向けて 従来の手法にこだわらず産地基盤づくりを！



J A 全農 えひめ 県本部長

こ 小 越 慎 介

JAグループの存在価値発揮に向け
JA大会決議の着実な実践を

編集部

新年おめでとうございます。昨年は、TPP交渉の大筋合意や農協法の改正

など農業をめぐる大きな動きがありました。本日は、昨年4月に就任した小越県本部長から、これからの愛媛農業とJA全農えひめ・JAグループの果たす役割、県本部長としての意気込み・思いを聞きたいと考えています。

まず、最初に様々な動きのあった平成27年ですが、どういう1年でしたか？

小越 農協法の改正については、農協改革の一環として、中央会だけでなく、全農を含めたJAグループ全体の組織・事業のあり方、根幹が問われました。JAグループとして自己改革を進めることとしておりま

すが、昨年開催された全国及び県のJ A大会決議、そして私ども全農の次期3か年計画をいかに実践していくか、これからJ Aグループの存在価値が問われると思っています。

T P P交渉の大筋合意によって、国会決議で聖域とされていた米や麦、牛・豚肉など重要5品目についても特別輸入枠の設定や約3割の関税が撤廃されるほか、愛媛県の重要品目であるかんきつ類に関してはオレンジ生果の季節関税がありました。これも他の生産果実・果実加工品と同様に関税撤廃の方向であり、愛媛農業にとって大きな影響が懸念されます。

編集部 政府においては、T P P関連政策が検討されていますが…。

小越 政府の責任において農業が持続的にできる政策・予算措置の確立が不可欠です。品目別の経営安定対策や生産基盤の維持拡大、担い手育成などの対策とともに、柑橘については畜産・野菜のような価格や経営の安定制度・対策の確立が必要です。畜産は1経営体あたりの規模は大きくなっていますが、農家数が減少しており、T P P対応では生産基盤を維持できるようしっかりとサポートしていくことが重要です。そのためには、岡本会長も東京・県内での要請活動で頑張っていたと思いますが、国会批准に向けて、J Aグループと関係団体が一体となり引き続き、粘り強く要請活動を展

開していかねばなりません。

また昨年を振り返ると、全体として高齢化による生産基盤の弱体化を強く感じた年でした。天候不順の要因も大きいわけですが、温州みかんやかつて生産量日本一にもなった栗などは出荷量がシーズン当初の計画を大きく下回りました。果実事業の取扱高は平成12年に約600億円だったものが半減しています。40周年を迎えたJ A愛媛野菜生産者組織協議会の取扱高を見ても、平成5年には100億円を超えていましたが、26年度の実績では約55億円とほぼ半減しました。こうした実態を目の当たりにすると、高齢化や離農後の対応ができていない、まさに待ったなしの状況だと感じています。

編集部 先般のJ A愛媛県大会では「持続可能な愛媛農業の実現」に向けて、J Aグループの自己改革に全力をあげることが決議されました。

小越 自己改革では、「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」への挑戦として、担い手の育成・支援や営農・経済部門の体制強化、マーケティングに基づく生産施行・販売事業改革、付加価値の増大、生産資材事業のトータルコスト削減がポイントとなっています。

県内でも集落営農組織やJ A出資型農業生産法人の設立に加え、J A自らが農作業を支援していく取り組みや直接生産に関わっていくという動きも広がっています。

こうした取り組みを県域としても支援・後押しして生産基盤・生産量を維持していかなければなりません。また、所得の増大に向けて販売力強化と生産コストの引き下げなどを進める上では、従来の枠や手法にこだわらない施策・事業展開を進めていかねばならないと考えています。

「トータルアグリッド事業」を拡充・強化して新たな事業展開

編集部 全農は今年4月から次期3か年計画がスタートします。愛媛県本部として、どのように取り組もうと考えていますか？

〈全農の重点事業施策〉

1. 元気な産地づくりと暮らしへの貢献
2. 国産農畜産物の販売力強化
3. 海外事業の積極展開

〈3つの事業戦略〉

1. プロダクトアウトからマーケットインへの事業展開
2. 生産から販売までのトータルコストの低減
3. 農産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

小越 先ほども少し触れましたが、愛媛県では高齢化・担い手不足、栽培面積減少と耕作放棄地の増大、農業産出額の減少に加え、人口が約138万人から15年後には127万人、30年後には107万人まで減少すると予測されています。

こうした情勢・環境を踏まえ、全農が現在取り組んでいる3つの重点事業施策と3つの事業戦略を基本に、J A愛媛県大会でも決議された「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に向けて、現在次期3か年計画の具体策等を検討・策定している段階です。

その柱として、3年間取り組んできた「トータルアグリード事業」を拡充・強化し、名称等も含めて新たな施策として実践していきます。

編集部 どのような取り組みを考えていますか？

小越 平成16年度からの9年間は「生産・販売・購買一体事業」、平成25年度から3年間は「トータルアグリード事業」として、いわゆる生産・販売・購買の各部門に横軸を入れて連携した取り組みを進めました。特にこの3年間は品目別にビジネスモデルを設定し、米麦では「にこまる」、果実では愛媛オリジナル品種の「紅まどんな」「甘平」、野菜では里芋「伊予美人」といった品目でブランド確立を図りながら生産・販売拡大につなげ、企画販売等販売力強化、

担い手支援を進めてきたところです。

次期の3年間は、これまでの取り組みを踏まえ、マーケティング、いわゆる実需者ニーズに基づく生産・販売方式への転換、トータルコスト低減等の実践、多様な農業者ニーズへの対応を重点に、レベルアップ・ステップアップさせていきます。具体策はこれから固めていくところですが、産地基盤をつくる営農支援や愛媛を知ってもらう販売拠点の機能強化が必要だと考えます。作ったものを生産から販売のパッケージで提案していく取り組み・流れを整理し、産地に提案しながら着実に実践していきたいと考えています。そのためには、取り組みの「選択と集中」が必要だと考えています。

担い手サポートセンター等を設置 生産基盤維持・拡大めざす

編集部 県域の担い手サポートセンターも設置されますね。

小越 28年度からは改革を推進するための体制を整備します。J A全農えひめ、中央会、県信連、J A共済連が連携し、それぞれが専門性や得意分野を通じてJ Aの担い手育成やJ Aの総合事業支援、人材育成を一体的にサポートしていく体制をつくり、取り組みを進めていくものです。営農・経済事業を担うJ A全農えひめとしては、生産・販売の事業提案や分析、営農技術やコ

スト低減、J A人材育成の支援などで県域機能をしっかり果たしていきたいと考えています。そのため、営農振興課は、28年度から営農支援課(仮称)に名称を変更することになっています。

耕種部門における生産基盤維持・拡大、県産農畜産物の消費拡大のほか、農業者ニーズに対応する新規事業の開発や広域物流など物流コスト削減を担当する部署として、管理部に「事業開発室」(仮称)を新設します。事業開発室で調査・検討・立ち上げしたものは、各事業部門で実践していく計画です。

同様に畜産部には「畜産振興対策室」(仮称)を新設し、畜産生産基盤の再構築、畜産事業の強化を進めることにしています。

米の作付面積と集荷量維持、 集荷率の向上めざす

編集部 事業別のポイントをお聞かせください。まず米麦関係は？

小越 米では、「水田フル活用」による面積の維持と県内の需要に応じた売れる米づくりと主食用以外の水田活用米穀の作付推進がポイントです。

主力品目のコシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリを中心にひめライスブランドを活かした販売を行うには、県域で1万5千トンの集荷量をキープしなければなりません



ん。集荷量の拡大に向けて、手法も変えていく、例えばJA周桑などで取り組みを始めたフレコン集荷の拡大や、法人等も含めてこれまでJAに出荷していなかった方からの集荷推進等も進め集荷率アップを図ることも必要です。

「にこまる」は一定の生産基盤ができたので、今後は食味向上対策やブランド力・販売力の向上を進めます。

生産量日本一のはだか麦は、現在生産・供給が需要に追いついていない、足りていない状況です。高品質・収量向上が期待できる新品種「ハルヒメボシ」を計画的に作付拡大しながら、需要・ニーズがあるわけですから、産地としてそれに応えられる作付・生産体制を推進・構築していく必要があります。

高品質安定生産や 労働力支援の取り組みを推進

編集部 柑橘類生産量日本一の柑橘産地を守る取り組みについては？

小越 果実では、27年産温州みかんの出荷

量が表年でありながら昨年並みの5万3千トン程度に落ち込む見込みです。当初計画を大きく下回った要因としては、天候による影響に加え、高齢化によって面積だけでなく、反収・生産力も落ちていっているのではないかと危惧しています。JA全農えひめ「高品質果実生産支援事業」などを通じて、正品率向上や極早生みかんの栽培面積10%削減と優良系統への更新を図るとともに、園地の若返り、放任園対策やJAの労働力支援対策の取り組みを支援することで生産基盤を維持していきたいと考えています。

また、このまま生産量が減少していくと、共選場の運営等に影響が出てきます。28年度から新たに県の果樹農業振興計画も策定されるので、行政等と連携して産地振興を図るとともに、将来的にJA間連携も必要になるのではないかと考えています。

販売面では、企画販売や温州みかんの機能性表示等によるアピールなど、ブランド力を活かしチーム愛媛として販売力強化をめざします。



現在、東京事業所には3JAの職員がJA全農えひめに出向という形で駐在しています。が、大阪事業所も含めて提案型の販売、市場経由の結

びつき販売を引き続き強化していきます。果実の輸出については販売チャネル多角化の一環として、温州みかん等の輸出に取り組んできました。残留農薬や検疫などクリアすべき課題もありますが、引き続き行政と連携して取り組みます。

水田フル活用等による生産振興と 愛媛チームとしての販売強化

編集部 長年野菜業務を担当されていましたが、品目も多く難しい面がありますね。

小越 野菜は、品目も多い中である程度品目を絞り込んで、JAと連携した産地基盤づくりが急務です。玉ねぎやキャベツなどの業務用野菜、里芋「伊予美人」は広がりを見せており拡大推進を進めるとともに、きゅうり・トマトなどの主力品目の面積維持、水田フル活用による冬春露地野菜の拡大、レタスと枝豆をセットにしたモデル実証などいろいろな方法で生産振興を進める必要があります。



▶ JA愛媛広域さといも選果場

27年産から、里芋については、JAうまの2選果場が広域共選体制となりました。東予地区のJA新居浜

市・JA西条・JA越智今治の里芋を集め、「JA愛媛広域さ」といも選果場」として一元集荷多元販売を行っています。愛媛チームとして、選果・流通コストの削減、品質・規格の統一により里芋「伊予美人」のブランド化、販売強化にも寄与していけると考えています。野菜については生産基盤も弱くなっているので、これを一つのモデルとして広域選果を進めていく必要があると思っています。

また、昨年5月には、JA全農えひめが西条市のカット野菜事業会社「株式会社サンライズ西条加工センター」に出資し、連携強化をはかり、原料野菜の供給拡大を通じた生産振興と産地化、直販事業の活性化に取り組んでいます。今後は地元企業と連携・コラボして産地振興を進めたいと考えています。

横軸の連携を強化し

手取り最大化をめざします

編集部 生産資材のトータルコストの低減についてはいかがですか？

小越 農家の手取り最大化に向けて、販売強化とともに低コスト資材供給と収量・品質向上・省力技術の組み合わせによる資材のトータルコスト低減を進めていきます。

肥料農薬では、TACとモデルJAで、低コスト商品や省力技術商品の開発・普及

による物財費・労働費の削減、土壌診断に基づく適正施肥の推進、予約結集、多様な生産者ニーズに対応した商品の開発や専用品商品の提案、総合物流JAの拡充等の対応を進めていきます。

農機事業では、事業機能・体制の再構築と独自型式や中古農機の流通推進、園芸資材では予約結集と低コストハウスの推進、段ボール工場は全農グループ唯一の直営工場の強みを活かして、コスト低減や省力化などにつながる機能性段ボールや新規資材の普及を進めます。

また、資材事業では、担い手経営体への対応について十分とは言えませんでした。JAのTACや関係部署と連携して担い手経営体への積極的なアプローチ・推進に取り組めます。また、JAの人材育成・技術力の向上・支援に向けて、講習会・研修会等を積極的に実施していきます。

編集部 TACの取り組みJAも広がってきました。

小越 「とことん会ってコミュニケーション」ということで担い手を総合的に支援していく、あるいは新規就農者の育成や組織化・法人化等を支援する対応窓口として、重要性はますます増してきます。今後は事業面との連携強化をはかるとともに研修等を通じた人材育成がポイントだと考えます。

JA全農えひめでも、先ほど述べたように事業部門、横軸との連携強化を図るため、

営農振興課職員だけでなく、各品目の職員も「県域TAC」としての体制と取り組み強化・支援を進めます。

全農グループの総合力を活かして 経営安定と生産基盤維持

編集部 畜産については施設等の関係もあり新規就農が難しいわけですが…。

小越 畜産については、耕種部門の流れとは別に、本所畜産部門、JA西日本くみあい飼料(株)やJAえひめアイパックス(株)、JA全農ミートフーズなど生産から販売までJA・全農グループの総合力を活かして、生産性の向上や経営安定対策、基盤維持の仕組みづくりを進めます。

新設する畜産振興対策室(仮称)では、養豚では広見種豚増殖センター跡地の利活用や休閒豚舎の活用、肉牛では、肉用牛センターを核として繁殖基盤づくりを進めるCBS事業(キャトル・ブリーディング・ステーション)などを通じて生産基盤の再構築を図っていききたいと考えています。

販売面では量販店・生協等販売先とのマッチング販売や店頭試食宣伝を積極的に展開するとともに、「ふれ愛・媛パーク」伊予牛「絹の味」のブランド力向上、県内企業とのコラボ企画による販売促進・イベント開催などを通じて販売力・ブランド力の向上に取り組めます。28年度からは、愛

媛のブランド肉のPR・情報発信拠点として農産物直売所の精肉販売の取り組みをスタートさせる計画です。

編集部 県のブランド牛については？

小越 県の「愛媛あかね和牛」は、黒毛和牛でありながら脂肪を抑え赤身の多いヘルシーな肉ということで、これまでの伊予牛「絹の味」黒毛和牛とは食味や位置づけ、販売ターゲットも違います。まだまだ生産量も少ないわけですが、県と連携してブランド確立に取り組んでいきたいと考えています。

編集部 JA愛媛県大会では「地域の活性化」への貢献が挙げられています。

小越 人口減少や高齢化の進展で地域インフラ機能へのニーズが高まっています。JA全農えひめとしては、「新たなJA生活事業の実践運動」導入で地域実態に応じた取り組み提案・実践のほか、ライフライン

店舗の維持・拡大、県内産農畜産物の消費拡大のほか、ネット環境を利用した「JAタウン」「くらしの宅配便」の取り扱い拡大などの取り組み強化を進めます。

従来の手法にこだわらず 常に「現場目線」で機能発揮を

編集部 県本部長1年目で感じたことは？

小越 県内には愛媛をベースにした全国的にみても有名な大手企業がありますが、長い歴史の中で何らかの形でJA全農えひめやグループ会社とのつながり、異業種間で接する場面が多いということです。県内の量販店・生協とは事業を通じて双方のトップ等が出席する事業提案等の場が定例化しています。そうしたネットワークを活かし、例えば農作業支援の仕組みづくり、全農ブランド商品の供給など、コラボレーションでいろんな事業展開の可能性があるんじゃないだろうかと思っています。

もう一つは、農家・JAの要望に応えられる人材を育成していくことが、私どもの責務だと考えています。JA役員からも農家と直に接する指導員・職員の専門研修開催など人材育成が求められています。

JA全農えひめ内部でも、入会2年から6年の職員を対象に、部長以上が講師となってスキルアップ研修を実施しました。参加した職員だけでなく講師となる幹部職

員にも好評で、新たな「気づき」も生まれています。担当業務以外の事業の歴史や状況、取り組み方向、考え方などを学び、質疑等を通じて県本部やJAに事業全体を把握することで、JAグループとしての総合力発揮等に活かしてくれるのではないかと期待しています。事業の原動力となるJA・県本部職員の人材育成を積極的に進めていこうと思っています。

編集部 今年の抱負、メッセージをお願いします。

小越 私は県本部長就任以来、日頃から職員には現場に出向くこと、「現場目線」で従来通りの方法・内容を踏襲することなく事業の仕組み・進め方に常に疑問を持つて業務に当たるように求めています。

最初に触れましたが、これからの3年間は、JAグループの存在価値が問われる重要な期間です。JA愛媛県大会でも決議された「夢と活力ある愛媛の農業とくらしづくり」に向けて「現場目線」で県域機能を最大限に発揮するため、28年度からは機構も変えることとしました。農業者の所得増大と産地基盤の維持を最優先に、これまでの取り組みをさらに進化させて、グループ会社と一体となり、全力を挙げてまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



THE

ねとわーく

「平成27年産「伊予柑」の出荷販売対策と消費宣伝計画

果実課

平成27年産伊予柑の生産予想量（12月10日時点・系統JA分）は31、325トン（前年比108%）、販売計画は、23、696トン（前年比114%）と前年を大きく上回る予想量となっています。果実内容は糖酸ともに平年並みで、果実肥大は重量換算で見ると前年比93%、平年比95%と小玉傾向となっています。

今年産の温州みかんは切り上がりが多い見込みとなっている上、静岡の主産JAの生産予想量が前年より少ない予想のため、中晩柑類の販売環境は良いと期待されていますが、平成27年産伊予柑の出荷販売にあたっては、高品質果実の出荷を基本とし出荷時の品質基準の遵守や需給動向に対応した計画的な出荷や的確な産地情報の発信に努めるとともに、果実需給調整対策事業および消費宣

伝事業を有効活用していきます。

〈主な出荷対策〉

品質基準に基づいた食味・内容重視の出荷を遂行するため、階級別貯蔵管理を推進し、階級別の適期出荷に積極的に取り組みます。

販売開始は基本的に年明けからとし、1月販売は品質基準の遵守を徹底します。ただし、年内に市場からの出荷要請がある場合は、品質基準を遵守の上、注文数量以内の対応とします。

低品位果実は加工仕向け等市場隔離を行います。特に3月はス上がり注意到意した出荷を行います。

〈主な販売対策〉

月別の出荷計画量は品質調査結果や伊予柑の需要動向及び販売環境を勘案し、2月販売を中心に精度の高い出荷計画を設定します。

消費者は酸を嫌う傾向が強いため、伊予柑全体のイメージを損なわ

ないよう品質基準を遵守した計画的な出荷を行い、特に1月販売は食味を重視した販売に取り組みます。

3L級以上の大玉果は販売後半の品質低下の発生や末端での取り扱いの縮小及び販売アイテムの変更等も懸念されるため、大玉果は早期に出荷し、遅くとも2月19日までに販売終了となるよう徹底を図ります。また、M級は3月1日以降の販売とします。

1月6日～27日における毎週水曜日販売分を停止します。

レギュラー品については3月上旬頃には終了し、3月販売は「弥生紅」の出荷促進に取り組みます。

選果場ごとの出荷状況を的確に把握し、市場ごとの残荷量・未仕切り状況を加味して出荷量を調整します。日量出荷量の平準化の徹底を図り、休み明けは平常時の20%増以内を抑えます。

〈緊急時の対策〉

1月のJA全農えひめ全市場日別平均販売価格が一定価格を下回る恐れや市場在庫が増加する恐れがある場合は、緊急対策会議を開催し、全JA公平な出荷調整や出荷停止等の措置を実施します。

〈伊予柑果実需給調整対策事業〉

今年産の販売計画は前年を大きく

上回る予想となっているため、各JAの独自対策とあわせ県下全体の対策として、低品位果実の市場隔離を行う加工誘導に絞り込んだ需給調整対策（対象11月19日以降市場出荷用1、500トン）を全JAが連携協調した中で取り組みます。

〈消費宣伝計画〉

対面販売を重視した店頭試食宣伝販売を中心に、愛媛いよかん大使によるキャンペーン、「愛媛いよかん『いい予感』」湯島天神合格祈願いよかんサンプリングイベント等を実施し、愛媛いよかんのイメージアップを図ります。

試食宣伝販売を行うSPレディのさらなる知識強化と育成を図り、効果的な店頭試食宣伝販売活動（のべ200日）を実施し、「愛媛いよかん」の消費拡大につなげます。また、今年産は東京都巣鴨の地蔵通り商店街の果実専門店、縁日（4



店で、縁日（4のつく日）に愛媛県産柑橘類の試食販売を実施し、購買層（主にシニア層）を絞った試食販売を展開します。

1月23日～24日『えひめみかん祭り』開催！

ーいよてつ高島屋 8階スカイドームー

平成28年1月23日(土)～24日(日)の2日間、松山市のいよてつ高島屋で『第38回えひめみかん祭り』を開催します。このイベントは、愛媛産柑橘のPR・消費拡大と愛媛の果樹農業の振興を図ることを目的に、消費者との交流イベントとして毎年開いています。

今回のテーマは「愛をギュッと詰め込んだ愛媛みかんに愛にきて」。当日は、県内から選抜された果実コンクール出品果実約200点をはじめ、伊予柑・はれひめ・ポンカン・せとか・デコポン、「紅まどんな」など数多くの柑橘、加工品などを試食販売するほか、楽しい催しを行って会場を盛り上げます。



■当日スケジュール

◇1月23日(土) 10:00～19:00

10:00～15:00 ポンジュース蛇口 (無料)
 10:00～17:00 みかん風味綿菓子 (チラシのご利用券持参の方対象)
 10:30～ 「ちびっこ和太鼓演奏」
 11:00～11:30 「愛のオレンジロード」紹介 & みかん早むき大会
 12:00～12:30 みかんクイズ (1回目)
 15:00～15:30 みかんクイズ (2回目)
 16:00～16:40 みかん餅つき (先着100名様無料配布)

◇1月24日(日) 10:00～18:00

10:00～15:00 ポンジュース蛇口 (無料)
 10:00～17:00 みかん風味綿菓子 (チラシのご利用券持参の方)
 11:00～11:30 「愛のオレンジロード」紹介 & みかん早むき大会
 12:00～12:30 みかんクイズ (1回目)
 13:30～14:10 みかん餅つき (先着100名様無料配布)
 15:00～15:30 みかんクイズ (2回目)

「焼き肉セットなど豪華賞品が当たる
無洗米キャンペーン実施中」

(株)ひめ
ライス

(株)ひめライスは、12月21日から2月29日まで、伊予牛「絹の味」焼き肉セットなどが抽選で合計600名様に当たる無洗米キャンペーン「サツジャツポンであらうまい！」を実施しています。

キャンペーンでは、テレビCMやポスター・リーフレットを通じて、

①お米を「サツ」。②水を「ジャツ」、

③スイッチを「ポン！」という無洗米の「洗わずに炊ける便利さ」を強くアピールするとともに、「あらうまいシリーズ」の商品力を高め、販売量の拡大をめざします。

また、キャンペーン期間中は「にこまる」の認知度向上のため、試食販売等によるPR活動を実施し、販路拡大をめざします。

＜キャンペーン内容＞

【実施期間】

平成27年12月21日～平成28年2月

29日(当日消印有効)

【対象商品】

ひめライス無洗米「あらうまい！」全商品(もち米含む)

【景品】

◆Aコース(40名) 伊予牛「絹の味」焼き肉セット

◆Bコース(40名) 「ふれ愛・媛ポーク」しゃぶしゃぶセット

◆Cコース(50名) 宇和島鯛めしセット

◆Wチャンス(470名) 「あらうまい愛媛県産にこまる」2kg

【応募方法】

ひめライス無洗米「あらうまい！」商品に付いている「応募シール」または米袋左上に付いている「ひめマーク」を切り取り、2kg分以上を1口(もち米1・4kgなら1枚)として応募はがきまたは郵便はがきに貼付し、希望の賞品コース(A・Cコースのうちの1つを明記)、郵便番号・住所・電話番号・氏名・年齢・購入店、ひめライスに対するご意見・ご感想を記入の上、郵送してください。

応募方法やキャンペーンに関する詳細は、店頭か(株)ひめライスのホームページでご確認ください。



食の記憶

卵ごはん。今でも大好きです。両親は共働きだったので幼い頃はいつも祖母と一緒にいました。祖母がお昼に作ってくれたもの。それが卵ごはんでした。アルミの小さな手鍋をコンロにかけ、そこにしょう油で味付けした生卵とごはんを入れ、煎り卵の要領でぐちゃぐちゃに混ぜただけの「煎り卵ごはん。おかずの記憶はまったくないのでが（笑）」この卵ごはんだけは舌に確かな記憶が残っています。祖母の時代には卵が貴重な栄養源。育ち盛りの孫に栄養をと、私の事を思い作ってくれていたのでしよう。

冬には、学校から帰ってきた私に「これ食べなさいや」とコタツの中から新聞紙の包みを差し出します。くしゃくしゃの新聞紙の中には大きな海苔むすび。ほんのり温かくて三角とも丸ともつかない形。全部に海苔が巻かれた黒々とした「ばくだんむすび」です。でも正直、幼い私はチョコやスナック菓子が食べたかった。「えー？ またおむすび？」とがっかりしながら弟

と2人で食べていたのを思い出します。でも不思議です。今思い出すのはあのほんのりあったかい「ばあちゃんのおむすび」の味。塩加減といい握り具合といい、母が作ったのとは明らかに味が違うのです。握ってくれた「手」の味がするのです。未だに弟やいこが集まるとあのデッカイ「ばあちゃんのおむすび」の話になります。「もう一回食べたいよねー」と。

さあ、果たして私は娘に食の記憶を作ってやれているのか？「おふくろの味」を食べさせてやれているのか？娘の成長とともに我が家の「食」を見直す事が多くなりました。

平成15年に産まれた娘はもうすぐ中学生。あどけなさはずっとなくなり、身長は私と並ぶまでに。凄まじい成長のスピードです。子どもを授かって以来、家族の「食」の大切さを痛感してきました。特に授乳期。「自分が食べたものがおっぱいを通してこの子の血となり肉となり骨となる」と気付かされ、毎日の食に俄然関心が湧きました。

平繁かなえ

KANAE HIRASHIGE

あいテレビ (ITV) アナウンサー。広島県呉市出身。1969 (昭和44) 年2月7日生まれの水瓶座、血液型はO型。安田女子大学卒業後に広島で1年半フリーアナウンサーを経験。1992年10月、開局にあわせて、あいテレビへ入社。ローカル情報番組「ハナマル調査団」、「ハナマルセブン」などでグルメ・リポーターを務めるなど情報系番組を中心に11年間活躍。好物はウニ、イクラ、フレンチトースト。苦手なのはセロリとレバー。2003年4月に長女を出産、翌年4月にタフニュース「NEWSキャッチあい」キャスターとして職場復帰し、11年間県内各地の今を伝え続ける。2015年7月からは、あいテレビがゴールデンタイムとしては13年ぶりとなる情報バラエティ番組「よるマチ！」にレギュラー出演。

趣味は、フリーマーケットめぐり、ハワイアンフラ。資格は英検2級、きき酒師&焼酎アドバイザー (日本酒サービス研究会認定)、ワインコーディネーター (全日本ソムリエ連盟認定) を取得。

★「よるマチ！」 (毎週月曜・19:00~19:54)

「月曜の夜が“待ち”遠くなる」県民お役立ち情報バラエティ番組。毎回、県内の旬な情報の特集で伝えるほか、グルメコーナーなどもある。松山市一番町のアエル松山2階の小さなスタジオ・i-studio (通称アイスタ) から生中継で夜の街の様子も紹介している。



▲あいテレビNEWSキャッチあい「ベジフルキッチン」取材風景。松山市のアボカド農家にて。アボカドは樹に生るから「果実」だそう

それ以来、私の食の基準は「安全安心」にシフト。産地や生産者を気にしながら食材を手取るようになりました。

この3月まで担当していた夕方ニュースでも「食」に関わる話題を多く取材してきました。シニア野菜ソムリエで野菜料理研究家のやのくにこさんとの出会いがきっかけで県内の旬の産地を巡るコーナー「ベジフルキッチン」を作り、春夏秋冬県内でできる農作物の産地を訪ね歩きました。愛情込

めて作物を育てている農家さんの言葉に触れ、愛媛の農産物への愛着が一層湧きました。一方で知っているようで知らない事も沢山教わりました。松山市では国産アボカドの産地化を目指し栽培研究に力を入れている事。アボカドって果実？ 野菜？ どうやって生ってるの？ 愛媛で育つの？ そんな疑問も産地に行けば一目瞭然です。東温市の白ネギ農家を訪ねた際には、白ネギの成長は10ヶ月もかかる事、白



▲～幼い頃の平繁さん～祖母に抱かれた幼い頃の私。白黒なので時代が分かりますね

い肌を作るためには、土をかぶせる「土寄せ」を頻繁に行う事、そもそも白ネギの茎はどこからどこまで？ と疑問と発見だらけ。農家の方には当たり前的事でも産地に足を運べば「そうだったのか！」と目からウロコの連続でした。（詳しくは、やのくにこ著「そうだったのか！ えひめ食の探検&ベジフルキッチン」で）。



▲白ネギ1本をまるごと使う「白ネギのチジミ」（やのくにこさんオリジナルレシピ）具もタレも長ネギが主役

▶「ベジフルキッチン」で放送のレシピも紹介している



この「ベジフルキッチン」では毎回、旬の農産物を使った簡単レシピを紹介してきました。「愛媛の新しい食文化、新・郷土料理を作りたい」という野望（笑）の下、旬の野菜や果物をふんだんに使うおかずやデザートを提案。我が家の食卓にも度々登場しています。故郷の味。母の味。いつか娘が私の料理や味を思い出してくれる日を夢みて、これからも苦手な家事に励みます！

●平成27年度愛媛県総合畜産共進会「肉牛・肉豚の部」「交雑種・乳用種の部」 JA愛媛たいき畜産センターと日野出畜産(有)が農林水産大臣賞受賞！

平成27年度愛媛県総合畜産共進会の「肉牛・肉豚の部」、「交雑種・乳用種の部」の審査・表彰式（主催（公社）愛媛県畜産協会）が、12月5日、大洲市のJAえひめアイパックス(株)本社で開かれ、農林水産大臣賞（優等賞首席）には、肉牛（黒毛和種）の部でJA愛媛たいき畜産センター、肉豚の部で日野出畜産(有)（JAにしうわ）が選ばれました。

肉牛の部（黒毛和種）は40頭、交雑種・乳用種の部は15頭出品。肉牛の部は枝肉重量にバラつきがあったものの、全般的に体型のしっかりしたものが多く、特にロース芯が大きくモモ・バラも充実しており、肉の光沢・締まりも良好なものが多く、肉質4等級以上は92.5%と前年をさらに3.9ポイント上回る好成績でした。

大臣賞のJA愛媛たいき畜産センターの出品牛は、肉食・光沢良好で締まり・きめも申し分なくチャンピオンにふさわしい枝肉だった。上田茂場長は、「夏場以降、好成績をあげて流れも良かった中、今回の出品牛は血統もよく期待していただけて受賞できてうれしい。神戸市場でも高評価を得て、顧客をつかんで喜んでもらえるよう頑張りたい」と初の受賞に笑顔を見せていました。

肉豚の部では、上物以上が90.6%と昨年を9.6ポイント上回り、総体的に良好な枝肉が揃いました。肉量豊富で全体のバランスが良く斉一性に優れた点が高く評価された日野出畜産(有)の竹内日出男社長は、「近年は次席が多く大臣賞まであと一歩だったのでうれしい。連覇を目指して頑張ります」と9年ぶり4回目の受賞を喜んだ。

JA全農えひめ主催の肉牛セリは、kg単価の最高が農水大臣賞を受賞したJA愛媛たいき畜



▲大臣賞を受賞した日野出畜産の竹内公太さん(左)とJA愛媛たいき畜産センター上田場長

産センターの4,030円（購買者＝マルハフーズ(株)）で前年を400円下回ったものの、平均単価は黒毛和種が2,754円（同429円高）で全体としては高値で取引され、交雑種は1,608円（同140円高）、乳用種は1,160円（同150円高）でした。

会場では、県畜産功労知事表彰も行われました。その他の受賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内はJA名）。

【肉牛の部】◆優等賞▽次席＝新開忠（おちいまばり）▽3席＝谷口貴（えひめ南）▽4席＝土居原克彦（ひがしうわ）▽5席＝佐々木邦満（にしうわ）◆1等賞▽首席＝福山保（愛媛たいき）▽次席＝宮本正義（にしうわ）▽3席＝越智秀清（おちいまばり）▽4席＝小池智喜（同）▽5席＝河田修（えひめ南）

【肉豚の部】◆優等賞・次席＝(株)多田ファーム（愛媛たいき）

【交雑種・乳用種の部】◆優等賞＝高月昭雄（ひがしうわ）

【愛媛県畜産功労知事表彰】（カッコ内は市町）▽永市正明（西条市）▽宮本正義（西予市）

●JA愛媛養豚経営者協議会研修会

「今まで以上のコスト削減・生産性向上」に向けて

JA愛媛養豚経営者協議会は、12月2日、協議会の会員とJA関係者など約80人が参加して、松山市内で研修会を開きました。

あいさつした同協議会の竹内日出男会長は、「TPP大筋合意は国会決議を無視した結果で、大きな失望と将来への危機を感じています。今まで以上にコスト削減と生産性向上を上げていかねばならない」と呼びかけました。

研修会では、JA愛媛中央会地域農業対策部の新居田正人部長がTPPをめぐる情勢を報告したほか、全農飼料畜産中央研究所から「新ハイコープ豚の飼い方」、系統養豚生産性向上プ



ロジェクト班の三船一良さんらが「多産系種豚の飼養管理について」研究発表がありました。

●親子で学ぼう地産地消体験ツアー

里芋「伊予美人」を掘って、食べて、美味しさに大満足！

えひめ愛フード推進機構とＪＡ全農えひめ、ＪＡ愛媛野菜生産者組織協議会は、11月29日、四国中央市などで「親子で学ぼう！ 地産地消体験ツアー～里芋等収穫コース」を実施しました。

地産地消体験ツアーは、愛媛産農産物を親子で見て、触れて、食べる体験を通して、地産地消の意義を学んでもらおうと実施したもの。当日は松山市在住の親子7組20人が参加し、四国中央市のＪＡうま管内などを訪問しました。

ＪＡうま豊岡選果場では、ＪＡ担当者の説明で里芋「伊予美人」の荷受けから選別、段ボールに詰められるまでの流れを視察し、珍しい光景に見入っていました。ＪＡうま特産品部会豊岡支部長の高橋博さんの畑では、株を掘り出して親芋・小芋・孫芋がつながっている様子を観察したり、栽培方法や品種特徴、収穫方法を教わって、袋に入りきれないほどの芋を収穫。「大きい」「アヒルの形をした里芋」などと歓声を上げて互にとれた芋を見せ合いながら収穫を楽しんでいました。

昼食では、ＪＡ女性部員の協力で芋炊きと里芋ご飯を食べて「おいしい」と笑顔を見せて大満足。里芋の選び方や美味しい食べ方・作り方



のポイントを教わりながら、交流を深めました。参加したお母さんは、「教わった電子レンジの皮むきをやってみます」と話していました。

●SPレディ産地研修会

店頭で愛媛産柑橘の魅力や生産者の思いを発信します！

ＪＡ全農えひめ果実課は、首都圏で愛媛県産柑橘をPRする主婦約200人をSP（セールスプロモーション）レディとして組織化し、愛媛産柑橘の店頭試食宣伝活動を実施しています。

11月11日と12日の2日間、経験2年～8年のSPレディ18人を愛媛県に招き、「SPレディ産地研修会」を開催しました。

この研修会は、産地訪問を通じて、SPレディの皆さんに産地・生産者の思いや苦労なども含めて愛媛県産柑橘の魅力を感じてもらい、店頭でより効果のあがるPRと販売拡大につなげようと、2年に一度行っています。

今回は、早生みかんの出荷本番を迎えるＪＡにしうわ川上共選管内の園地・選果場の視察やみかんの収穫体験、生産者との意見交換などを行いました。



参加者は、「生産者に直接会っていろんな話も聞けたので、これから自信を持って販売します」と話していました。これまでのSPレディ訪問人数はのべ約400人。愛媛産柑橘販売の大きな戦力になっています。

●(株)ひめライス

「愛媛県産ひのひかり」発売開始

(株)ひめライスは、12月7日から、「特A愛媛県産ひのひかり」「愛媛FC応援米」に代えて、新たに「愛媛県産ひのひかり」5kg・10kg袋の販売を開始しました。

「特A愛媛県産ひのひかり」は、平成26年産の愛媛県産ヒノヒカリが一般財団法人日本穀物検定協会の食味ランキングで愛媛県では初めて最高ランクの特A評価獲得にあわせて、3月14日から10月までの期間限定で販売。期間中の売上げが、県産ヒノヒカリを使用した既存商品「愛媛FC応援米」の約13倍となる410tの実績を上げ、当初予想を上回り好評でした。

同社では、県産ヒノヒカリの食味の良さ・イメージが定着したことから、15年産米の本格販売にあわせて準備を進め、愛媛県産ひのひかりを使った「愛媛FC応援米」に代えて、愛媛県と品種名を前面に打ち出した商品を発売することにしたものです。精米袋は「特A愛媛県産ひのひかり」の後継商品として金色と黒を基調

としたデザインを引き継ぎ、上質感を出しています。

県内のJ A・量販店で販売し、1か月あたり50tの売り上げをめざします。

同社の松田一人社長は、「『特A愛媛県産ひのひかり』をご購入いただいたお客様にも引き続きご愛用いただけるよう、デザイン等を踏襲した。美味しい県産ヒノヒカリ＝美味しいイメージをさらに浸透・定着させて販売拡大につなげたい」と意気込んでいます。

なお、「愛媛県産ひのひかり」は、「愛媛FC応援米」の取り組みを引き継ぎ、売り上げの一部を愛媛FCの活動費として支援していきます。

希望小売価格は、5kg1,836円（税込）。



●はじめてのみかんむき

みかんをむく楽しさとみかんの美味しさを体感！

～東京・大阪で園児約2万人がみかんむきを体験～

J A全農えひめ果実課は、愛媛みかんの消費拡大活動の一環として、毎年私立幼稚園連合会の協力を得て東京と大阪の幼稚園児約2万人を対象に、食育活動「はじめてのみかんむき」キャンペーンを実施しています。

園児にみかんをむく楽しさや旬の愛媛みかんの美味しさを感じてもらい、幼い頃からみかんを食べる習慣を身につけてもらおうという取り組みは、毎年幼稚園関係者・保護者からも好評で、今年で13年目となりました。

今年は、愛媛みかんが出荷最盛期を迎える11月25日に、希望幼稚園の中から抽選で81園（東京60園、大阪21園）の園児ら21,439人を対象にみかんと図鑑風のリーフレットを配布して実施しました。



東京都大田区の若竹幼稚園では、J A全農えひめ職員が園児たちに愛媛みかんの話をした後、みかんをむいた園児たちはさっそく美味しくにみかんを頬張っていました。

●愛媛うまいけん！ 地産地消フェア

日本食研(株)と連携して肉の試食宣伝活動を実施

J A全農えひめ畜産部は、11月14日と15日の2日間、松山市のフジグラン松山1階特設会場で開催された「愛媛うまいけん！ 地産地消フェア」に出展し、伊予牛「絹の味」と「ふれ愛・媛ポーク」の試食宣伝活動を行いました。

2日間とも日本食研(株)とのコラボ販促として実施。日本食研(株)の「すき焼きのたれ」「豚ちゃんこのタレ」を使った試食、伊予牛「絹の味」と「ふれ愛・媛ポーク」のサブブランド「肱川清流豚」「すき焼きのたれ」「豚ちゃんこのタレ」の中からいずれか2品購入された方に「お楽しみ抽選会」を実施しました。

なお、畜産部は11月14日に四国乳業本社で開催された四国乳業(株)・J A全農えひめ・コープ



えひめ主催の「うし・牛COW（カウ）ニバル」で、産直牛をPRしました。

●JA全農主催「TACパワーアップ大会2015」

JAひがしうわがJA表彰、片山幸太さんがTAC表彰受賞

JA全農は、11月26日と27日の2日間、横浜市で「TACパワーアップ大会2015」を開き、全国で7JAがJA表彰、9人のTAC（地域農業に出向くJA担当者）が表彰されました。そのうち、愛媛県からはJA表彰をJAひがしうわ、TAC表彰をJAひがしうわ宇和農産センターの片山幸太さんが受賞しました。

大会は、TAC活動のレベルアップをめざして毎年開かれており、今回が8回目。全国から約540人が出席し、受賞JA・TACの優良事例の報告などを通じて全国の活動成果を共有しました。大会宣言では、TAC活動をととして、担い手とともに、経営課題の解決や地域農業の魅力発信、担い手の将来の夢を総合力で実現することを確認しました。

JAひがしうわは、新規就農者・後継者の育成を目的に、農業法人と連携した常時雇用体制の新規雇用を実施。農作業が極端に少ない冬場の収益確保のために加工業務用キャベツや白ネギを導入提案し、面積拡大したこと。若手農業



▲(左からJAひがしうわの) 福井重雄指導課長・大野晋二常務、片山さん

者と連携したあぐりスクール等の食農教育を実施し、地域農業の活性化に寄与したことが評価されました。

片山さんは、若手農業者等の連携した酒米「しずく媛」の普及・拡大を進め、担い手の所得増などにつながる仕組みを確立。JA全体の作付増や収量増、集荷や販売金額アップに貢献したことが評価されました。

●JA石碑大展示予約会

今回は県内5会場で墓石の展示会開催！

JA全農えひめ生活資材課と県内JAは、11月13日から15日までの3日間、実際に触れて・見比べて・納得して選んでもらえるよう、(株)イイ本社（松山市石手寺前）をはじめ、西条店・今治営業所・大洲店・宇和島店の県内5か所の

特設展示場で、JA組合員限定の『JA石碑大展示予約会』を開催しました。

昨年までは1会場（松山市）だけでしたが、今回は5会場で開催。47件の成約があり、1億300万円余りの実績を上げました。

●「NHK歳末たすけあい」

イベントを通じて集まった9万4,861円を寄付

JA全農えひめは、総合イベントを通じて集まった9万4,861円を「NHK歳末たすけあい」に寄付しました。12月1日、NHK松山放送局で贈呈式を行い、小越愼介県本部長が同局の泉谷八千代局長に手渡しました。

10月31日JA全農えひめなどが開いた「レインボーフェスティバル」で実施したチャリティーバザー売上金全額9万3,700円に加え、同会場内の募金箱で集まった1,161円の合計金額です。チャリティーバザーは、毎年、全農えひめとグループ会社の役職員が持ち寄った善意の品を販売しています。

JA全農は、全農グループの全国統一の社会



▲泉谷NHK松山放送局長に募金を手渡す 小越県本部長（左）

貢献活動として、NHK歳末たすけあい募金活動を実施しています。

なんでもBOX

●第45回日本農業賞愛媛県代表表彰式

県代表に阿部馳夫さん・禮子さん夫妻とJAえひめ南ブラッドオレンジ部会

第45回日本農業賞の愛媛県代表の表彰式（主催：JA愛媛中央会・NHK松山放送局）が、12月1日、松山市のJA愛媛で開かれ、個別経営の部で阿部馳夫さん・禮子さん夫妻（JAひがしうわ）、集団組織の部でJAえひめ南ブラッドオレンジ部会（代表＝小玉恵さん・39人）が表彰されました。

同賞は、日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善と発展に取り組み、地域社会に多大な貢献をされている農業経営体を表彰するものです。

阿部さん夫妻は、現在22.5aでオリジナル品種や珍しい品種など花を17品種栽培。家族経営で高所得を実現し、効率的・合理的な経営を実践。衰退した花卉産地の再生をけん引し、地域農業のリーダーとして高く評価されました。

JAえひめ南ブラッドオレンジ部会は、平成21年5月に全国初の「ブラッドオレンジの産地化」をめざし設立。経営環境の変化や地域温暖

化の影響を見据えた先見性のある取り組みとして、長期的な視点に立った産地づくりに取り組んだこと、生産から出荷までの基本技術を確立し、収量・品質の向上を実現。効果的な販促活動で安定的な販路を確立し、用途拡大や6次産業化の道を開き、優れた収益力で柑橘農業に新たな可能性を示した点などが評価されました。



▲小玉会長（左）と阿部さん夫妻

●いよてつ高島屋JA直売所合同フェア

えひめがおいしい！ JA直売所が大集合！

11月25日～12月8日まで、松山市のいよてつ高島屋9階で、JA愛媛県信連、いよてつ高島屋、JA全農えひめ主催の「JAバンクえひめ・JA全農えひめプレゼンツ えひめがおいしい！！ JA直売所大集合」が開催されました。

このイベントは今回初めての開催で、期間中は、県内15の直売所が週替わりで大集合し、自慢の農産物や加工品の試食を交えてPRしました。

JA全農えひめの「JAグリーンえひめフ

レッシュ市」はお米、JAえひめアイパックス（株）「いよっくら」は肉とオリジナル商品などを販売し、「おいしい」と来場者に好評でした。



▲JAえひめ中央「太陽市」は紅まどんなど加工品などを販売

●えひめ・まつやま産業まつり

JA・JA全農えひめ・グループ会社などが出展しPR！

11月21日～22日の2日間、松山市の城山公園やすらぎ広場で、今年も松山市をはじめ県内の産品を地元の方々にPRする「えひめ・まつやま産業まつり」が開かれました。

会場では、県内の各市町や農林水産団体などが出展。JA関係では、愛媛県農協青壮年連盟・JAえひめ女性組織協議会が杵つき餅等の実演販売したほか、JAうまの芋炊きやJAえひめ中央の「紅まどんな」が昼過ぎには売り切れるなど大好評でした。

また、JA全農えひめ関係では、畜産部が「ふ

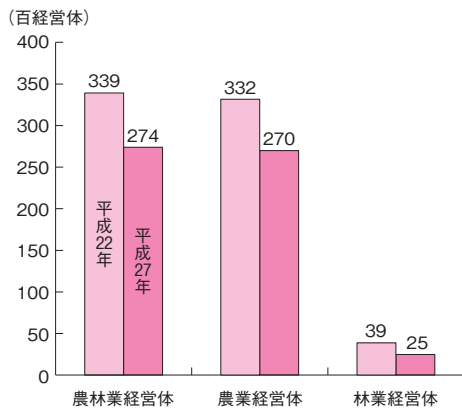
れ愛・媛ポーク」串焼きと「にんにくボン酢」、愛媛県茶業振興協議会は缶詰め放題を交えて愛媛のお茶と加工品、（株）えひめ飲料はボンジュースをそれぞれ販売し、大勢の来場者にブランド農産物・加工品をPRしました。



統計BOX

農業経営体数は減少する一方、法人化が拡大(愛媛県) ー 2015年農林業センサス結果の概要(概数値)から ー

図1 農林業経営体数(愛媛県)

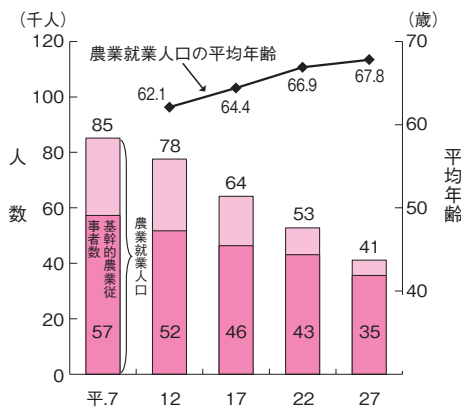


愛媛県の農林業経営体数は2万7,400経営体で、5年前に比べて19・2%減少しました。このうち農業経営体数は2万7,000経営体、

**農業経営体数は減少、
平均年齢は67・8歳**

農 林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態と変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成・提供することを目的に5年ごとに行っている調査です。昨年、農林業者の皆様や関係者のご協力で、2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)が行われ、結果の概要が公表されました。そこで今回は、その結果についてみていきます。

図2 販売農家の家族労働力の推移(愛媛県)

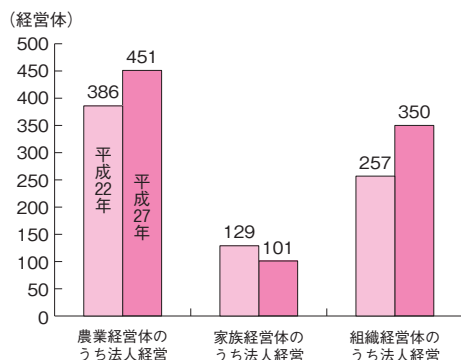


農業経営体のうち法人経営は451経営体で、5年前に比べて16・8%増加しました。このうち家族経営体の法人経営は101経営体となり、5年前に比べて21・7%減少しました。一方、組織経営体の法人経営は350経営体となり、5年前に

法人化の拡大が進展

林業経営体数は2,470経営体となり、5年前に比べてそれぞれ18・7%、35・9%減少しました(図1)。また、販売農家の農業就業人口は4万1,100人で、5年前に比べて1万1,700人(22・2%)減少、平均年齢は67・8歳となりました。基幹的農業従事者数(農業人口のうち、ふだん仕事として主に農業に従事している者)は3万5,600人で、5年前に比べて7,500人(17・4%)減少しました(図2)。

図3 農業経営体のうち法人経営数(愛媛県)



注：法人経営には、農産物の生産・販売等を行う法人の他に、農作業受託のみを行う法人が含まれる。

この結果をうけ農林水産省では、農業構造の実態を十分に踏まえ、農林施策を展開していくことにより、強くて豊かな農林業、美しく活力のある農山村を創り上げていくこととされています。本年も引き続き統計調査へのご協力を宜しくお願いいたします。
中国四国農政局愛媛支局

比べて36・2%増加しました(図3)。ちなみにセンサスとは、古代ローマに存在した「センソール」という職の役人が5年ごとにローマ市民の数などを調査することを仕事にしており、センソールが行う調査を「センサス」と呼んでいたといわれています。このことから、通常すべてを調査の対象とし、個々の対象に調査票を使って、全般的な多項目にわたる調査を行うことを意味しています。

NOW NOW

COOKING

今月の素材

温泉たまご



簡単にのっけるだけで、アラ不思議
ひと味違う、まるやか料理に大変身



▶ (左) 鮭のカレースープ 温泉入り、(中) 温泉リゾット 温泉入り、(右) 温泉風呂吹き無

指導／学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大佐古 正子先生

鮭のカレースープ 温泉入り

〈材料・4人分〉	※1人あたり約148kcal
温泉たまご	4個
鮭	2切
塩・酒	少々
里芋	2個
タマネギ	1個
キャベツ	2枚
青ネギ	2本
生姜 (すりおろし)	1カケ
サラダ油	適量
カレー粉	大さじ2
コンソメスープ	800cc
塩・コショウ	少々
薄口醤油	小さじ1

〈作り方〉

- ① 鮭は一口大に切り、塩・酒をふる。
- ② 里芋は一口大に切り、軽く塩もみし、水で洗い流してヌメリをとる。
- ③ タマネギは1cm幅のくし形切り、キャベツは短冊切り、青ネギは斜め切りにする。
- ④ 鍋に油を熱して里芋とタマネギを炒め、カレー粉を振り入れて炒め、スープを入れる。
- ⑤ 沸けばアクをとって弱火にし、生姜を入れる。里芋に火が通れば、①とキャベツを入れる。
- ⑥ 塩・コショウ、薄口醤油で味を調える。
- ⑦ 器に盛り、温泉たまごを添える。

温泉リゾット

〈材料・4人分〉	※1人あたり約236kcal
温泉たまご	4個
ベーコン (スライス)	1枚
トマト	1個
レンコン	50g
タマネギ	1/2個
シメジ	1/2パック
ニンニク (みじん切り)	1カケ
サラダ油	少々
白ご飯	200g
コンソメスープ	400cc
塩・コショウ	少々
チーズ (ビザ用)	50g
黒コショウ (粗挽き)	適量
パセリ (みじん切り)	少々

〈作り方〉

- ① ベーコンは1cm角に切る。
- ② トマトは湯むきして横半分に切り、種をとり、1cmの角切りにする。
- ③ レンコンはイチョウ切りにし、タマネギは薄切り、シメジはほぐす。
- ④ 鍋に油を熱し、①とニンニクを炒め、③を入れ、塩・コショウをし、さらに炒める。
- ⑤ スープを加え、沸けば、ご飯を入れて煮込む。
- ⑥ スープが半量になれば、②を入れて煮込み、水分がなくなればチーズを加え混ぜる。
- ⑦ 器に⑥を盛り、温泉たまごをのせ黒コショウとパセリをふる。

温泉風呂吹き無

〈材料・4人分〉	※1人あたり約210kcal
温泉たまご	4個
カブ (葉付き)	4個
④ ダシ	1,200cc
④ みりん	80cc
④ 薄口醤油	大さじ2
④ 塩	小さじ1
④ 〈柚子味噌〉	
④ 白味噌	80g
④ 砂糖	大さじ2
④ 溶き卵	1/2個
④ みりん	大さじ2
④ 柚子の皮 (みじん切り)	1/4個分
④ 柚子の皮 (飾り用・針柚子)	1/4個分

〈作り方〉

- ① カブの首部 (葉付き) は飾り用に切りとり、塩茹でし、冷水にとる。身の皮はむく。
- ② 鍋で④を沸かし、カブをまるごと入れてフタをし、約30分コトコトと炊く。
- ③ カブが柔らかくなれば、味を見て塩を加え、さらに炊く。
- ④ 別の鍋に④を入れて木べらでよく混ぜ、火にかけて混ぜながら練り、全体に火が通れば、みじん切りの柚子の皮を加えて混ぜる (柚子味噌)。
- ⑤ 鍋に湯を沸かし、温泉たまごを殻つきのまま温める。
- ⑥ 器にカブを盛り、中身を少しスプーンでくり抜き、⑤をのせて④をかけ、針柚子とカブの首部を飾る。



2015年度産愛媛みかんの「旬」の美味しさに、とことんこだわりました。

「POM完熟愛媛みかんの旬搾り」は、一番美味しい糖度の上がった完熟した愛媛県産うんしゅうみかんのみを搾ったストレート果汁100%のジュースです。完熟の美味しさへのこだわりが詰まった旬の味を、ぜひ味わってください。

POM 完熟愛媛みかんの旬搾り 税込 **3,880円**
12ビン/6本入

株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地
TEL: 089-923-1500 FAX: 089-924-0304

<http://www.ehime-inryo.co.jp>
(通販専用) <http://www.pom-j.com>

2016
1月号

No.973

発行／全農愛媛県本部 〒790-8555
編集部／総務課 ☎(089)948-5323

松山市南堀端町2番地3
印刷／コープ印刷(株)

編集人／高井 雄二



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



愛媛みかんに愛にきて

愛をギュッと詰め込んだ、

2016.1/23sat・24sun ○いよてつ高島屋8階 スカイドーム特設会場
○午前10時～午後7時※24日(日)は午後6時まで



展示＆販売会 果実コンクール・愛媛かんきつと加工品販売

県内各地より選ばれた多彩な果実と加工品が勢揃い。果実コンクールは予約販売ですのでお早めにお越しください。

試食 高級かんきつ・紅まどんをはじめ、普段味わうことができない品種が勢揃い!!
※各品種がなくなり次第終了

劇形造人・作道泰子がみかん節句を盛り上げます!

みきゃんも来るよ!!



みかん餅つき みかん祭り恒例、大人気のみかんの餅! ○23日(土) 午後4時～○24日(日) 午後1時30分～ ※先着100名様 **無料**

みかん風味綿菓子

午前10時～午後5時まで
お一人様一つ限りです。

ポンジュース蛇口

午前10時～午後3時まで **無料**

みかんクイズ

愛媛の人なら
知らないかん!!

○正午～ ○午後3時～

参加無料

ステージ演奏

認定こども園
小羊園のちびっこ和太鼓

23日(土) 午前10時30分～

ご利用券



※H28年1月
23日・24有効
※材料に限り
がありますの
でお時間によ
ってはご利用
できない場合
があります。
17:00まで



○「愛のオレンジロード」紹介
○みかん早剥き大会



午前11時～
午前11時10分～

主催：愛媛県 JA全農えひめ 愛媛県果樹同志会 愛媛新聞社

後援／愛媛県議会、愛媛県農業会議、愛媛県農業協同組合中央会、JA愛媛県協議、愛媛県農業共済組合、日本政策金融公庫松山支店
JAバンクえひめ農林中央金庫松山推進室、愛媛県果実生産出荷安定協議会、全国共済農業協同組合連合会愛媛県本部、えひめ愛フード推進機構
協賛／いよてつ高島屋、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、FM愛媛、読売新聞松山支局、朝日新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞松山支局
日本経済新聞松山支局、日本農業新聞、時事通信社松山支局、共同通信社松山支局、日刊工業新聞松山支局 (順不同)

この冊子は再生紙を使用しています。